

10 YEARS
SINCE 2009

日本ファンドレイジング協会

Toward 2030

これまでの10年。そして、2030年に向けて。

日本ファンドレイジング協会10周年宣言

寄付、社会的投資が進む社会とは、

「応援し、分かち合える社会。」

「何度でもチャレンジできる社会。」

「誰かの役に立つことが自分自身の幸せとつながる社会。」

「困った時、助けてくれる人がいる。そう、信じられる社会。」

そんな社会の実現に向けて、これからの10年間で
実現したいことを、10周年宣言としてまとめました。

日本ファンドレイジング協会は、会員、ボランティア、
寄付者など、応援して下さる全ての皆さまとともに
チャレンジし、また皆さまのチャレンジも全力で
応援し続けます。

宣言 1 想像を超えた新たなチャレンジを誘発する

これまでの10年間は、私たち日本ファンドレイジング協会が多くの方とともに、「寄付・社会的投資が進む社会」に向けた戦略を構想し、事業をつくり、社会づくりを推進してきました。これからの10年は、私たちの想像を超えた新たな仕組みや仕掛けを生み出すチャレンジを誘発し、そのチャレンジを私たちが全力で応援することで社会を進化させる「誘発的イノベーション」のステージにシフトしていきます。私たちは、「どれだけ新たなチャレンジを応援できたか」を問い続ける存在になります。

宣言 2 寄付が“成功体験”や“自身の幸せ”につながる社会にする

誰もがこれまでよりも自由な発想で楽しみながら寄付を行い、寄付によって生まれる変化を感じ「応援してよかった」と思える社会をつくりたい。これは、寄付を通じて寄付者自身が幸せを感じ、ワクワクしながら社会参加をするような社会です。そのために、教育現場やあらゆるコミュニティの中で、その経験を分かち合い、全ての世代で寄付や社会的投資をすることが評価され、当たり前のものになる状態をつくりたい。

宣言 3 次元の異なるスケールの資金循環を生み出す

これまでの10年間で、オンライン寄付、遺贈寄付やソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)の推進など、「寄付・社会的投資が進む社会」の実現に必要なインフラが数多く整備されました。これからの10年は、これらをこれまでの延長線上ではない、次元の異なるスケールに成長させるために、影響力のある新たなプレイヤーの参入を促します。団体や業界、そして国境を超えて、企業、経営者、スポーツ選手、アーティストなどと連携し、課題解決のためのスケールの大きな資金を循環させ、未来への投資を行う社会を実現します。

宣言 4 エコシステム(生態系)の構築に貢献する

寄付・社会的投資が継続的に成長していくためには、社会制度、教育システム、人々の意識、担い手などの成長や進化を有機的に結合し、相乗効果を生み出すエコシステム(生態系)を構築することが必要です。これからの10年は、SDGsをはじめとする世界的な潮流、非営利セクター全体の成長、企業市民活動の推進、人々の社会貢献意識の変化などを俯瞰する視座を持ちながら、様々なプレイヤーとともにエコシステムの構築に貢献します。

宣言 5 ファンドレイザーが輝く社会を実現する

これまでの10年間で、1,000名以上のファンドレイザー、社会貢献教育ファシリテーター、そして全国にチャプターが誕生しました。これからの10年は、プロフェッショナルが、「10周年宣言」を実現するファシリテーターとなり、「共感の連鎖」を生み出すハブになる状態を実現します。そして、倫理を守り、活躍することで、プロフェッショナルたちの人生も益々輝く社会を実現します。

2030年に向けて

日本ファンドレイジング協会が設立された2009年からの10年で、寄付・社会的投資への関心は高まり、寄付がすすむためのインフラ整備も進みました。

1,000名以上のファンドレイザー、社会貢献教育ファシリテーター、そして、ファンドレイザーが中心となり設立された地域別・専門領域別のチャプターが全国に誕生しています。

多様化、複雑化する社会課題に対して、行政だけに頼らず、民間、市民の力による解決が期待され、その活躍の場も拡大し続けてきました。

2009

2009.2
日本ファンドレイジング協会
設立シンポジウムを開催



2009.6
事務局開設
第1回通常総会を開催



2009.10
ファンドレイジング専門誌
「Fundraising Journal」を創刊



2010

2010.2
第1回ファンドレイジング・日本開催
日本ファンドレイジング大賞発表



「寄付者の権利宣言」発表
日本において寄付者が自由な思想に基づき、寄付を行ううえで最低限有すると考えられる権利についてまとめました。そうした寄付者の権利を寄付の受け手側が尊重することにより、より寄付が進むような相互の信頼関係の構築を目指していきます。

2010.6
「2020ビジョン」発表
「2020ビジョン」は、2009年度通常総会にて、会員の皆様にどんな社会を目指すか、意見を話し合っていたが、2010年にまとめました。「2020ビジョン」では、2020年、日本社会の「善意の資金」が1億人の参加で、年間10兆円となる時代を実現する、と表明しました。

2010.7
International Summit on Fundraisingへ
日本代表として鶴尾雅隆(現代表理事)が初参加

2010.12
初めての「寄付の教室」を開催



2011

2011.1
「寄付白書2010」、
英語版寄付白書
「Giving Japan 2010」発行



2011
日本版ブランドギビング
(寄付信託)の税制改正

2011.2
「ファンドレイジング行動基準」策定

2011.3
街頭募金10の留意点を発表
東日本大震災に伴う義援金・支援金募集活動が活発化する中、募金活動者が社会の信頼を得ながら活動を実施できるよう、留意すべき事項をまとめ、発表しました。

2012

2012.2
第1回「准認定ファンドレイザー
必修研修」を開催

日本の民間非営利セクターに対する寄付市場拡大に資するため、ファンドレイザーのスキル向上、高度な倫理観を有するファンドレイザーの育成、後進の指導や健全な寄付市場の形成に向けて、指導的立場に立つ人材の育成を目的として認定ファンドレイザー資格認定制度がスタートしました。当資格を取得するために受講の必要がある「准認定ファンドレイザー必修研修」の第1回目には、310名が参加しました。



2012.2
休眠口座国民会議の発足
メンバーの一員として参画しました。

2012.2
「ファンドレイジング行動基準
ガイドライン」策定

2013

2013.2
第1期認定ファンドレイザーが誕生
社会を変えるプロフェッショナルである認定ファンドレイザーが16名誕生しました。
現在、129名。

2014

2014.3
会員1,000名突破

2014.6
G8インパクト投資タスクフォース
(現GSG)
副委員長に代表理事鶴尾雅隆が
就任

2014.10
日本初の「社会的市場形成に向けた
ロードマップ」出版
NPOや企業による社会的課題解決のための事業
と資金提供者をマッチングし、それらをスケール
アップ、スケールアウトさせていく「社会的投資市場」
の形成に必要な取り組みをまとめた、日本初の
「設計図(ロードマップ)」を寄付により発行しました。

2014.12
認定ファンドレイザーを中心とした
地域チャプターが全国4カ所で発足
認定ファンドレイザーが増える中、全国各地での
ファンドレイジングのノウハウ・知見の交流、寄付
教育が促進し、プロフェッショナルファンドレイ
ザーが輝く場を創出するために、チャプター制度
を発足しました。
チャプターは、認定・准認定ファンドレイザー、協
会会員が地域で集い、一人一人が人生の中で実現
したいという想い「物語」を共有し、それをチャ
プターみんなの「私たちの物語」として実現に向
けて応援しあう「場」として、北海道、関西、東海、九
州で同時に発足しました。

2019年
4月現在
地域チャプター
7チャプター

2015

2015.2
日本初
「子どもたちの自己肯定感を高める、
寄付教育オープンシンポジウム
2015」開催

2015.5
「社会に貢献する
～Youth Philanthropy in
Global Community～」出版



2015.7
若者就労分野では日本初となる
「ソーシャル・インパクト・ボンド
(SIB)」パイロット事業を組成

2015.12
日本初
「寄付月間-Giving December-」が
スタート

共同事務局として参画。初年度、NPO、企業、行
政、国際機関など全123法人が参加し、全国各地
で多様な自主企画が実施され、寄付キャンペーン
のロールモデルが生まれました。



2016

2016.3
日本初のNPO向け
「遺贈寄付ハンドブック」を発行



2016.4
日本初ファンドレイジング
専門スクール「ファンドレイジング・
スクール」開講

第1期スクール生として13名が入学
2018年度末までに、53名が修了

2016.5
テーマ別チャプター
として初めての
「アートチャプター」
設立

2019年
4月現在
テーマ別チャプター
4チャプター

2016
米国外で初めて
「Learning by Giving」プログラム
実施

第1回目は、高校生で初めての東京学芸大学附属
国際中等教育学校にて行いました。

2016.6
「社会的インパクト評価
イニシアチブ」に参画

日本で社会的インパクト評価を推進するための
プラットフォームをつくり、共同事務局として参画
し、協会内に「社会的インパクトセンター」を設置。
社会的インパクト投資、評価に関する調査研究、
研修等を開始。

2016.11
全国レガシーギフト協会の設立に
貢献

2年間にわたる遺贈寄付に関する課題分析や議論
を経て、呼びかけ人37名、賛同人363名、加盟団体
14団体とともに、遺贈寄付推進を担う団体を設立
しました。事務局として参画し、遺贈寄付の相談の
プラットフォームとなるウェブサイト「いぞう寄付の
窓口」を開設。また、これを契機に、遺贈寄付研修全
国キャラバンを開催しました。

いぞう寄付の窓口

2017

2017
認定ファンドレイザー資格保有者
100名突破

2018

2018.6
総会にて10周年事業スタート

会員、チャプター、ボランティアなどとともに、次の
10年に向けて取り組むことなどについて広く
ワークショップやオープンセミナーを開催(東京、
大阪)しました。10周年ファウンダーも同時に募
集を行いました。



2018.9
認定、准認定ファンドレイザー
資格保有者1,000名突破

2019

2019.2
日本ファンドレイジング協会10周年
10周年を契機に、これからの10年を会員とともに
ワークショップなどを通じて考え、新たな[Theory
of Change]に向け意見交換。それらを元に、目標
指針として「10周年宣言」としてまとめ、発表しま
した。さらに10周年ファウンダーとして仲間を募り、ビ
ジョンをともにする経営者や著名人に「ビジョン
パートナー」としてご参加いただいています。

2019.4
駒澤大学との包括連携協定を締結
協会と駒澤大学は相互に、寄付・社会的投資が進
む社会を実現するために連携することを発表し
ました。



社会のお金の流れを **デザイン** する 力のあるプロフェッショナルを増やす

共感をマネジメントしながら成長させる「ファンドレイザー」

SDGsの推進など、社会課題の解決を進めるための、現場と関心のある人をつなぐパイプラインとして、共感をマネジメントしながら成長させる「ファンドレイザー」という職種への関心が高まっています。

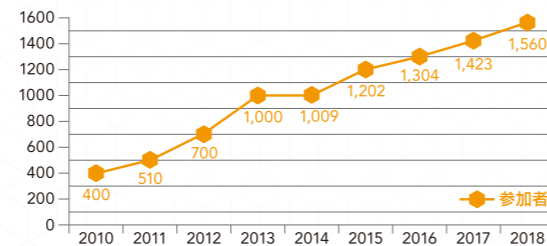
ファンドレイジングの成功事例から学び、交流することで元気をもらえる場を作りたいという思いでスタートさせた「ファンドレイジング・日本」。当初「誰も成功事例なんて共有しない」といわれ時期尚早と思われましたが、今では、1,600名が集うイベントに成長し、プロフェッショナルファンドレイザーが多方面で活躍するようになりました。この場で、成果や知見を発表するだけでなく、後進を育てるために寄付によって設けられた「スカラーシップ制度」も発足するなど、若手のファンドレイザー育成にも大きな力となっています。

団体向けのカスタマイズ研修のニーズ

日本赤十字社、全国国立大学附属学校PTA連合会など、同一組織向けに、ファンドレイジングの基礎を中心にしてほしい、遺贈寄付について詳しく知りたいなど、組織のニーズに合わせた「カスタマイズ研修」も実施しています。

400名 → 1,560名

第一回は400名だった「ファンドレイジング・日本」への参加者がこの10年で、1560名規模に成長しました。この場に全国から集まってくださる一人ひとりの、期待と情熱と行動のおかげです。

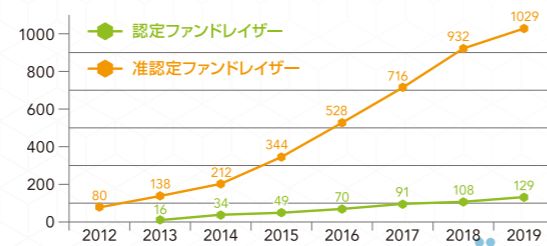


cfr 129名

包括的なファンドレイジング力を備えたプロフェッショナルファンドレイザーである「認定ファンドレイザー」が誕生し、日本社会を変革していきます。

cfr 1,029名

ファンドレイジングの基礎的要素を理解している「准認定ファンドレイザー」がいることで、組織の成長につながります。



広がるチャプター

認定ファンドレイザーを中心としたチャプターが各地に広がっています。チャプターでは、ファンドレイザーのコミュニティとして、研修開催や情報共有、ネットワークの拡大として運営されています。

地域チャプター **7**

- 北海道、東北、東海、静岡、関西、中国、九州

テーマ別チャプター **4**

- アート、福祉、大学、グローバル

多様なプレイヤーが活躍

ファンドレイザー

学生

社会的インパクト評価・投資



全国の仲間たち



山内 悠太さん
マーケティング・コンサルタント

FRJ登壇や海外カンファレンス参加はじめ、挑戦する「背中を押して」もらったこと、感謝しております。ファンドレイザーがキャリアを切り開く、温かな道しるべであり続けること、祈っております！



浅井 美絵さん
フリーランスファンドレイザー

「あなたが見たいと願う変化に、あなた自身がなりなさい」
ファンドレイザー仲間が全国に着実に増えていることをとても嬉しく思っています。



公原 寿彦さん
社会福祉法人
愛媛県共同募金会 事務局長

ファンドレイジングを通じた、多くの出会い感謝
ファンドレイザーの資格を保有することで、様々なセクターの方々との御縁に恵まれ、人生に大いなる潤いをもたらしてくれています。



吉田 富士江さん
大阪大学共創機構渉外本部特任専門職員
日本ファンドレイジング協会
大学チャプター共同代表

ご寄付をくださった方からも感謝されるファンドレイザーという仕事を通じて、充実した毎日を送っています。
また、大学のファンドレイザーのコミュニティとして、大学チャプターを立ち上げました。教育に関心のある方、ともに学びましょう。

社会を変えるプロフェッショナルファンドレイザーになりたい方は、こちら。

認定ファンドレイザー資格制度、各種研修について掲載しています。 [認定ファンドレイザー 検索 https://jfra.jp/cfr](https://jfra.jp/cfr)

新たな大きな社会のお金の流れを創出する

これまでにないスケールで資金循環を生み出すために、様々な取り組みを行ってきました。そのひとつが遺贈寄付推進です。40歳以上の約5人に1人が相続財産の一部を寄付しても良いと思っている中、「社会のために、何か役に立ちたい」と考える人を繋ぎ、世代を超えて思いを託す遺贈寄付が進む社会の実現に向けて「全国レガシーギフト協会」を設立しました。また「休眠預金等活用法」の成立(2016年)に寄与し、いよいよ社会課題解決に向けた活用が実施されるフェーズになっています。さらに日本ではSDGsの推進への期待から、ESG投資や社会的インパクト投資も広がりを見せています。2018年度には、日本の社会的インパクト投資市場規模は約3,440億円と推計され、過去3年で10倍近くの成長になっています。今後、日本でもさらなる社会的インパクト投資市場のエコシステム形成促進が期待されており、受益者、事業者、寄付者や投資家がともに社会や地球にポジティブなインパクトを生み出すための基盤づくりが必要とされています。

*SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、2030年までの国際社会共通の目標。
*ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の略。ESG投資は、企業のこの3要素の中長期的なリスクを総合的に評価し、投資すること。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



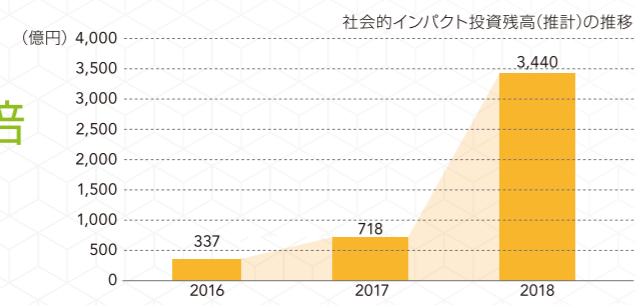
樽本哲さん
一般社団法人 全国レガシーギフト協会
理事/弁護士

遺贈寄付はその方の人生を豊かに彩る人生最後の社会貢献。誰もが安心して遺贈寄付ができる社会を一緒に実現しましょう。

工藤七子さん
一般財団法人 社会的投資推進財団

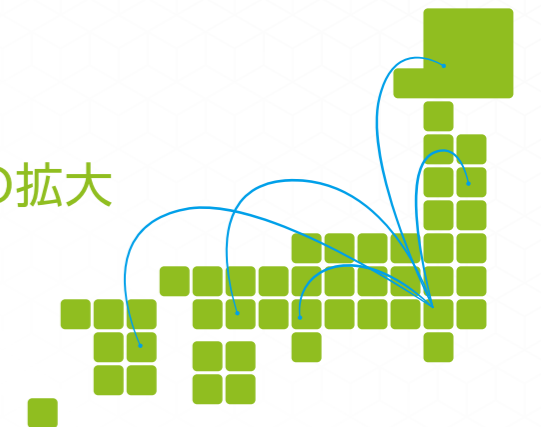
日本ファンドレイジング協会が推進する社会的インパクトの可視化が共感型の資金循環を加速させる鍵になると期待しています！

社会的インパクト投資市場規模 4.8倍



ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)の拡大

民間資金を利用した成果連動型の官民連携による社会的インパクト投資手法であるSIBが2017年八王子市、神戸市で初めて実施されました。その後、病気の重症化予防や健康増進、就労支援、地域の起業支援をSIBモデルが開発され、全国の地方自治体への展開が期待されています。



社会的投資への理解を 促進する(「空気」醸成)



NPO、大学、企業、行政などで寄付に係る主な関係者が幅広く集い、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12月1日から31日の間、協働で行う全国的なキャンペーンとしてスタートした「寄付月間-Giving December-」。

「欲しい未来へ、寄付を贈ろう」を合言葉に、初年度は、小泉進次郎議員の呼びかけなどから共感の輪が広がり、ビル・ゲイツ氏やサッカー日本代表の香川真司選手、古田敦也さんなどもイベントや広報に協力してくださいました。マスコットアンバサダー制度も始まり、子どもからシニアまで、寄付について考える機会として全国に広がっています。

増えている寄付をする人

寄付市場を明らかにするために、日本で初めての「寄付白書」を発行して10年。

この間、オンラインでの寄付など寄付する方法の多様化や震災などもあり、寄付する人が増加していることがわかっています。

寄付者率

34.0% → 45.5%

寄付月間関連企画

23 → 151

寄付月間に関連したイベント、シンポジウム、キャンペーンなどの企画を募集し、「寄付月間公式認定企画」として全国で催される企画は、年々増加し、海外で企画も行われています。

寄付月間賛同パートナー

123 → 563

寄付月間に賛同いただく法人等団体を募集し、寄付について考える機会等を発信しています。また、NPOは、寄付者への感謝を見直す機会としても広がっています。

社会課題解決のエコシステムを 育てるために協働する

当協会の取り組みだけでなく、社会課題解決のための資金循環が進むための取り組みを支援し、ともに市場を開拓しています。日本での健全な寄付文化の醸成やソーシャルセクターの発展のために、組織の枠を超え、お互いに刺激し学び合いながら、ともに歩みを進めています。

地域の課題を、地域が主体的になって 解決するために

市民社会のより一層の成熟と市民が主体的に取り組む地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進するために、各地域に、コミュニティ財団が創設されています。様々な社会的な資源を、地域社会とつなぎ、実効性の高い活動にしていくこと、またその役割としてのコミュニティ財団の健全な発展のための存在でもあります。当協会は、全国コミュニティ財団を応援するとともに、遺贈寄付などの取組を加速させるパートナーとして、当協会とともに活動を行っています。

全国コミュニティ財団協会 <https://www.cf-japan.org/>



石原 達也さん
一般社団法人全国コミュニティ財団協会
常務理事・事務局長

寄付は地域の当事者として行動する方法の一つ。まちを想う人の側に、これからも共に存在し役立ちたいと思います。

社会問題が複雑化、 深刻化する現代に、 「コレクティブ・インパクト」で 新しい社会を想像するために

新公益連盟(略称:新公連)は、社会的企業・NPO団体連盟組織として、既存の社会の否定・批判ではなく、行政や企業、住民等とともに、セクターや価値観の壁を越えた「コレクティブ・インパクト」による様々な社会課題の解決・新しい社会の創造を目指し創設されました。社会的課題の先進国である日本の将来を切り開く存在として活動を行っており、当協会も加盟しています。

新公益連盟 <https://www.shinkoren.or.jp/>



宮城 治男さん
NPO法人ETIC.代表理事
新公益連盟 代表理事

日本のソーシャルセクターも、ファンドレイジングの循環が起きることでダイナミックに加速していく、前夜に差し掛かっているといえます。この10年、大きな役割を果たしてこられたJFRAのさらなる飛躍に期待をしています。

米原 裕太郎さん



公益財団法人京都市
ユースサービス協会
チーフユースワーカー

次の10年はこれまで社会貢献教育を受けた生徒たちがどんどん大人になっていくタイミングです。

その時社会はどう変わっているか、不安でもあり楽しみでもあります。まだまだ私たちにできることはあるはず。これから一緒にがんばりましょう!

松田 薫二さん



日本サッカー協会技術部副部長
日本障がい者サッカー連盟専務理事
寄付月間推進委員会

日本ファンドレイジング協会のことを知り、ファンドレイザーを目指す人達の中に入った時に、社会変革を目指す大きなパワーを感じました。そして、活動に参加するようになり国や行政まかせの受け身ではなく、一人ひとりが社会をより良くしていくポジティブなアクションが必要だということを知りました。これからモスポーツを通じた社会課題の解決に取り組んでいきます!

木暮 里咲さん



慶應義塾大学
総合政策学部1年

中高生にも社会を変える力がある。社会貢献教育の授業を受ける中で、若者が社会貢献に関わるだけでなく、その場を作り提供する力があることを実感することができました。

桐葉 恵さん



早稲田大学
国際教養学部

国際協力NGOでのインターンによりファンドレイジングの重要性を感じ、寄付月間学生インターンに参画しました。目指す未来を作るために、様々な方法で寄付があることを体感し、興味深かったです。

0社 → 43社

ファンドレイジングに生かせるサービスも拡大

全国から約1,600名が集うようになった「ファンドレイジング・日本」では、ファンドレイジングに生かせるサービス等を提供する企業・団体のブース出展もあります。その数は、年々増えています。これは、ファンドレイジングが市場として成長してきた証です。今後、多様なソリューションプロバイダーの参入が期待されています。



TOWARD2030

2009年2月に設立した日本ファンドレイジング協会は、2019年2月に10周年を迎えました。10周年を一つの区切りとし、1年かけて全国のファンドレイザーや会員、チャプターの皆さまなど、様々なステークホルダーと一緒にこれまでの10年を振り返り、そして、これからの10年で実現したいことについて対話を重ねてきました。

その結果を取りまとめたものが「10周年宣言」です。そして、この宣言を具体化し、寄付・社会的投資が進む社会の実現に向けた2030年までのロードマップ「セオリー・オブ・チェンジ2030」も作成しました。

日本ファンドレイジング協会は、これらの実現へ向けて、会員、寄付者、ボランティアなど、応援して下さる全ての皆さまとともにチャレンジし、また皆さまのチャレンジも全力で応援し続けます。

2018年総会をキックオフに、
全国でワークショップを行ってきました



どれだけ新しいチャレンジ
（10年先）に
生み出せるか・
起爆できるか
に徹底的にこだわろう
を目標とする！

10周年ビジョンパートナー

新たな発想と アイデアで取り組むビジョンを共有する日本を代表するリーダーたち

 <p>荒井 優さん 札幌新陽高等学校 校長 めぐみナーサリースクール 園長</p>	 <p>新田 信行さん 第一勧業信用組合 理事長</p>	 <p>亀山 敬司さん DMM.com 会長 兼 CEO</p>	 <p>深尾 昌峰さん プラスソーシャル インベストメント株式会社 代表取締役会長</p>	 <p>藤沢 久美さん ソフィアバンク 代表</p>	 <p>古田 敦也さん スポーツキャスター 代表</p>
 <p>川淵 三郎さん 一般社団法人 日本トップリーグ連携機構 会長</p>	 <p>渋澤 健さん コモンズ投信株式会社 取締役会長</p>	 <p>白井 智子さん NPO法人トイボックス 代表理事</p>	 <p>堀田 力さん 公益財団法人 さわやか福祉財団会長 弁護士</p>	 <p>前野 隆司さん 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント 研究科委員長・教授 慶應義塾大学ウェルビーイング リサーチセンター長</p>	 <p>米良 はるかさん READYFOR株式会社 代表取締役CEO</p>

10周年ファウンダー

ビジョンを共にし、新たな ステージを創り出す仲間たち

ダイヤモンド

DMM.com

- DMM.com

FUNDREX

- 株式会社ファンドレックス

YAHOO! JAPAN ネット募金

- Yahoo!ネット募金

シルバー

- 特定非営利活動法人CANPANセンター
- 株式会社クレアン
- gooddo株式会社
- 株式会社トラストバンク

- 株式会社New Stories代表 太田直樹
- 株式会社バリューブックス
- 一般財団法人非営利組織評価センター
- リネットジャパングループ株式会社

- 木村昭
- 大上博夫
- 鶴尾雅隆
- 三島理恵

ファウンダー

- | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|--------|-------------------------|---------|---------|--------|----------------|---------|-----------------|---------|------------------|-----------------|
| ● 池畑博美 | ● 大澤香織 | ● 小川愛 | ● 鴨崎貴泰 | ● 木越純 | ● 岸本幸子 | ● 公原寿彦 | ● OurStyle木元有美 | ● 渋澤健 | | | | |
| ● 樽本哲 | ● 戸田由美 | ● 南條勉 | ● 早瀬昇 | ● ばんの | ● 深尾昌峰 | ● 宮下真美 | ● 吉田幸治 | ● 吉見新 | ● 脇坂誠也 | | | |
| ● 相澤順也 | ● 今給黎辰郎 | ● 大塚千枝 | ● 小倉順子 (一般社団法人地域公益推進機構) | ● 小坪拓也 | ● 清水利夫 | ● 高橋麻子 | ● 塚本いづみ | ● 西田順平 | ● 堀田絵未理 | ● 宮原美智子 | ● 山崎庸貴 | ● 米原裕太郎 |
| ● 新井寿枝 | ● 江口聡 | ● 岡本仁宏 | ● 折笠正明 | ● 齋藤弘道 | ● 末吉光太郎 | ● 高原寛子 | ● 寺本育男 | ● 弘末真子 | ● 本郷順子 | ● 村田早耶香 | ● 山田泰久 | ● HideoWatanabe |
| ● 安藤真 | ● 遠藤恵子 | ● 小川まさ | ● 金谷重朗 | ● 坂本治也 | ● 鈴木瞳 | ● 高村和雄 | ● 富田裕之 | ● 藤岡浩志 | ● 間辺初夏 | ● 桃井拓真 | ● やまぐちロボサポートセンター | |
| ● 安藤幹雄 | ● 大石俊輔 | ● 小川知子 | ● 鐘ヶ江由香 | ● 佐々木恵子 | ● 低引稔 | ● 竹内理 | ● 中原耕作 | ● 藤本喜久男 | ● musicdialogue | ● 安井章真 | ● 山本香苗 | ● 渡辺丈雄 |
| ● 石橋京士 | ● 太田裕己 | ● 荻原国啓 | ● 金子由美子 | ● 河村浩靖 | ● 塩澤宏之 | ● 高橋祐二 | ● 多田邦晃 | ● 細貝朋央 | ● 水谷衣里 | ● 山北洋二 | ● 吉田富士江 | |

10周年に際してご寄付くださいました皆さま

- | | | | | | | | | | |
|--------|----------|--------|-----------|----------------|--------|----------------------------|-------------------------|---------|---------|
| ● 熊西康信 | ● 熊西 乃里子 | ● 池田秀昭 | ● キタガワチカラ | ● 佐佐木誠 | ● 清水潤子 | ● 清野陽子 | ● 株式会社トリガーコーポレーション 高橋恭子 | ● 藤沢烈 | |
| ● 秋山徹 | ● 大下孝子 | ● 川田修平 | ● 佐藤吉久 | ● 土崎雄祐 | ● 中島学 | ● 平間麻里子 | ● 眞鍋亮子 | ● 山口聡 | ● 米田佐知子 |
| ● 池田一郎 | ● 膳三絵 | ● 工藤賀子 | ● 高橋優介 | ● 照井翔登 | ● 西山卓郎 | ● ファンドレイジングスクール第三期生有志及び希望者 | ● 森新太郎 | ● 山田健一郎 | |
| ● 大澤直子 | ● 金子英一郎 | ● 久保優子 | ● 立野匠 | ● 徳永伸介 (ツナギビト) | ● 秀平悠磨 | ● 松見幸太郎 | ● 三石裕美 | ● 吉川利幸 | |
| | | | | | | | | ● 村井庸平 | |
| | | | | | | | | ● 山口将由 | |

「1パーセント」の可能性

私は、「困っても助け合える。そう信じられる社会」をつくりたいと、10年前にチャレンジを始めました。

この10年、日本全国を周り、海外とのネットワークも広げ、グローバルに最新情報を学びながら、日本にはどんな仕組みが必要か、本気で考え、取り組んできました。おかげで、国内のみならず、各国に、仲間ができました。そして、その仲間は多くの期待を、日本に寄せてくださっていることを、私は、日本人として誇りに思っています。

それは、戦後、経済成長をとげた日本が、少子高齢化で複雑化・多様化する社会課題を抱える中、社会課題を解決するモデル国となりうることへの期待だと受け止めています。

「多発する自然災害」「少子化・高齢化」「SDGsの推進」「テクノロジー」「働き方」

今、社会は、大きな変革期です。

これからの10年を見据えた時、私は、「1%」の可能性を信じたいと思っています。

その1%とは、個人所得、企業活動、株式市場の1%です。その1%が社会課題の解決のために循環する社会となれば、大きな変化を生み出せるのではないかと考えています。全体からするととても小さな1%かもしれませんが、この1%の積み重ねが、社会全体に浸透し、それぞれの行動変容を促せるのかもしれないと本気で思っています。

そして、そんな思いを胸に、また、ここからスタートします。

これまでの10年で、1,200人のファンドレイザーが誕生しました。そして、ともに走ってきました。ただただ感謝と敬意です。

これからの10年は、この10年を糧に、皆さんのチャレンジも全力で応援しながら、この1%の可能性を実現していきたいと思っています。

引き続き、ご指導、ご支援のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人
日本ファンドレイジング協会
代表理事 鵜尾雅隆



ABOUT US

代表理事
鵜尾 雅隆
 株式会社ファンドレックス
 代表取締役

副代表理事
早瀬 昇
 社会福祉法人
 大阪ボランティア協会
 理事長

常務理事
鴨崎 貴泰
 認定特定非営利活動法人
 日本ファンドレイジング協会
 常務理事 / 事務局長

理事
有馬 充美
 2018 Harvard Advanced
 Leadership Initiative Fellow

理事
伊藤 美歩
 有限会社アーツブリッジ
 代表

理事
岸本 幸子
 公益財団法人
 パブリックリソース財団
 代表理事・専務理事

理事
久津摩 和弘
 一般社団法人日本地域福祉
 ファンドレイジングネットワーク
 COMMNET 理事長 /
 全国福祉チャプター代表

理事
黒田 武志
 リネットジャパングループ
 株式会社 代表取締役社長

理事
鈴木 栄
 一般社団法人
 ソーシャル・インベストメント・
 パートナーズ 代表理事

理事
藺田 綾子
 株式会社クレアン
 代表取締役

理事
高木 美代子
 公益財団法人ケア・
 インターナショナル ジャパン
 マーケティング部長

理事
田中 皓
 公益財団法人
 助成財団センター
 代表理事・専務理事

理事
徳永 洋子
 ファンドレイジング・ラボ
 代表

理事
山北 洋二
 あしなが育英会 顧問

理事
山崎 庸貴
 一般財団法人
 ふくしま百年基金代表理事
 /東北チャプター共同代表

理事
山元 圭太
 合同会社喜代七 代表

監事
金沢 俊弘
 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
 常務理事・業務執行理事

監事
樽本 哲
 弁護士 / NPOのための弁護士ネットワーク

(2019年度 / 50音順)

アドバイザー

経営戦略アドバイザー
坂之上 洋子
 経営ストラテジスト

**コミュニケーション
 アドバイザー**
三島 理恵
 CSR/NPOコンサルタント

事務局スタッフ

事務局長
鴨崎 貴泰
 統括、社会的
 インパクトセンター

**マネージング・
 ディレクター**
大石 俊輔
 寄付白書、社会貢献教育

**マネージング・
 ディレクター**
宮下 真美
 広報・マーケティング、
 ファンドレイザー育成事業、
 チャプター事業

**マネージング・
 ディレクター**
清水 潤子
 遺贈寄付推進・
 社会的インパクトセンター

秘書室
小川 知子
 総務、経理

**プログラム・
 オフィサー**
細貝 朋央
 ファンドレイジング・スクール、
 ボランティアコーディネート

**プログラム・
 オフィサー**
小川 まき
 ファンドレイザー育成事業、
 会員コミュニケーション

**プログラム・
 オフィサー**
久保 匠
 ファンドレイザー育成事業、
 チャプター事業

地域チャプター

北海道チャプター
共同代表【北海道】
奥山 大介 認定講師 cfr 公益財団法人札幌交響楽団
共同代表【北海道】
佐藤 ゆみ子 cfr NPO法人コンカリーニョ 理事
共同代表【北海道】
橋本 正彦 cfr community HUB 江別港 代表
共同代表【北海道】
牧 伸介 cfr 一般社団法人ソーシャル
 コミュニティデザイン協会
 専務理事

東北チャプター
共同代表【岩手県】
葛巻 徹 cfr NPO法人いわて
 連携復興センター代表理事
共同代表【宮城県】
鈴木 美紀 cfr NPO法人せんだい・みやぎ
 NPOセンター
共同代表【福島県】
山崎 庸貴 認定講師 cfr 一般財団法人
 ふくしま百年基金代表理事

関西チャプター
共同代表【兵庫県】
江口 聡 cfr しみん基金-KOBE
共同代表【大阪府】
河合 将生 認定講師 cfr office musubime
共同代表【京都府】
米原 裕太郎 cfr 公益財団法人
 京都市ユースサービス協会
 チーフユースワーカー

東海チャプター
共同代表【愛知県】
西村 健 cfr 株式会社M-LABO
 マネジメント
 コンサルタント
共同代表【愛知県】
山崎 恵美子 cfr

中国チャプター
共同代表【山口県】
船崎 美智子 cfr ライフスタイル
 協同組合 代表理事
共同代表【広島県】
中村 隆行 cfr 特定非営利活動法人
 ひろしまNPOセンター
 代表理事

静岡チャプター
代表【静岡県】
木下 聡 cfr フリーランス
 ファンドレイザー
副代表【静岡県】
千野 和子 cfr 公益財団法人
 ふじのくに未来財団
副代表【静岡県】
鹿又 正光 cfr BOWEN

九州チャプター
共同代表【福岡県】
大倉 慶子 cfr 社会福祉法人
 福岡市社会福祉
 協議会
共同代表【大分県】
日隈 諒 cfr 日田市
 地域おこし協力隊
共同代表【熊本県】
宮原 美智子 cfr 一般財団法人
 くまもと未来創造
 基金

テーマ別チャプター

アートチャプター
代表
奥山 大介 認定講師 cfr 公益財団法人
 札幌交響楽団
運営メンバー
小室 敬幸 cfr 一般社団法人
 Music Dialogue

音楽チャプター
運営メンバー
伊藤 麻里子 cfr
運営メンバー
山田 心 cfr 認定NPO法人
 芸術と遊び
 創造協会

全国福祉チャプター
代表
久津摩 和弘 認定講師 cfr 日本地域福祉 ファンド
 レイジングネットワーク
 COMMNET 理事長
副代表
公原 寿彦 cfr 愛媛県共同募金会
 事務局長
監事
相浦 圭太 cfr 税理士法人
 TAパートナーズ
 代表 / 税理士

共同代表
鷹尾 大英 cfr 福井県
 共同募金会 主任
顧問
早瀬 昇 認定講師 cfr 社会福祉法人
 大阪ボランティア協会
 理事長
監事
樽本 哲 cfr 弁護士 / NPOのための
 弁護士ネットワーク

グローバルチャプター

代表
五十嵐 豪 cfr
副代表
間辺初夏 cfr
ボードメンバー
塚原 真琴 cfr

副代表
谷口 真菜実 cfr
ボードメンバー
桃井 拓真 cfr
ボードメンバー
櫻井 祐樹 cfr

大学チャプター
共同代表
吉田 富士江 cfr 大阪大学
事務局
木村 昭 cfr 東京大学

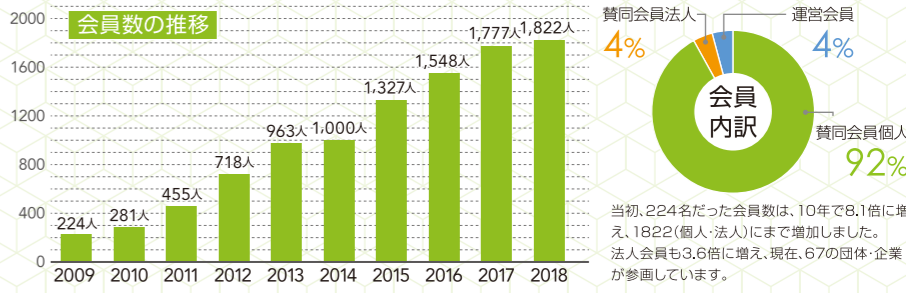
共同代表
高橋 麻子 cfr 東京大学・
 ファンドレイジング
 コンサルタント

OVER VIEW OF JFRA

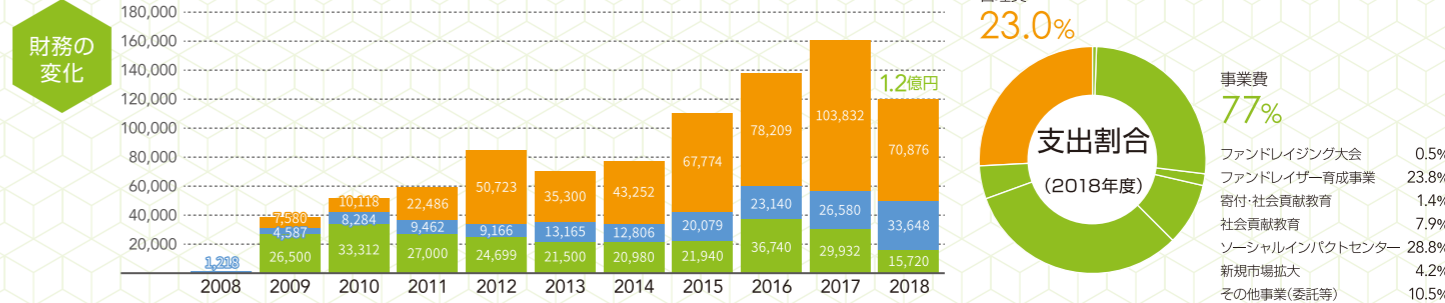
数字でみる 日本ファンドレイジング協会

これまでの10年間の変化を数字で示しました。
 「ファンドレイジング」という言葉が全く知られて
 いなかった頃に比べると、関わってくださる一人ひ
 とりが、インフルエンサーとなり、つながり、広がり、
 新たな価値を生み出してくださっているのが、
 ご覧いただけます。

会員数とファンドレイザー数の変化。 約9倍に広がったファンドレイジングに取り組む仲間。



自主事業の軌道化



セオリー・オブ・チェンジ 2030 ver.1.0

私たちが目指す社会像

私たちが、「セオリー・オブ・チェンジ 2030」を通して実現したい寄付・社会的投資が進む社会とは、個人が所得の1%を寄付などの社会貢献を通じて社会参加し、応援し合う社会であり、企業は、事業の1%を寄付などの企業市民活動に投じて社会的責任を積極的に果たそうとする社会であり、株式市場の1%が社会的インパクト投資になり、市場の見えざる心による社会課題解決が促進される社会です。

(参考:2017年度の給与所得総額:約216兆円(1%:約2兆円)、2017年度の日本企業の売上総額:約413兆円(1%:約4兆円)、2019年4月時点の日本株式市場:約634兆円(1%:約6兆円))

ゴール	キーアウトカム	アウトカム	2030目標	指標 (JFRAとして測定、発信していく指標)	パートナー	アクション(事業)		
						既存	新規(実施は2020年度以降でも可)	
私たちが目指す社会の実現	1 想像を超えた新たな資金循環を生み出すチャレンジが誘発され、成長している	チャレンジする人が増える (資金循環を生み出す仕組みや制度づくり)	FRJ参加者4000人(代理指標) *チャレンジ数等の目標設定が難しいため、代理指標としてFRJ参加者を仮置きする(以下同様)	・チャレンジ数、人数	・ファンドレイザー ・JFRA会員、パートナー団体 ・10周年ファウンダー ・ビジョパートナー ・FRJ参加者	FRJ(熱量による参加者の意識変容、行動変容を促すエコシステムをつくる事業としての位置付け)	・チャレンジの可視化、応援の仕組みとしてのサロン(チャレンジの表彰制度、ジャーナルでチャレンジにフォーカスする企画など) ・ビジョパートナーのチャレンジをJFRAと協働で実現するプロジェクト(チャレンジ応援事業の象徴) ・ギビングサークル	
		チャレンジしたことが成長する		・生み出したインパクト(誘発型イノベーションの事例の数) ・成長ストーリー ・FRJの参加者数				
		チャレンジを応援する人が増える	FRJ参加者4000人(代理指標)	・応援プラットフォーム数 ・FRJの参加者数				
	2 寄付者自身が、寄付を「成功体験」や「自身の幸せにつながる」と感じる状態が実現している	寄付者することの価値(自分が幸せになる)が明確化され、多くの人に伝わる		・目指す社会像の実現	・寄付、社会的投資を行った人の人数、割合 ・寄付、社会的投資市場規模	・寄付月間参加団体 ・寄付研究者	・寄付白書 ・寄付月間	・ギビングサークル ・FRJで寄付者が寄付する理由を語るセッションをFRJにつくる
		寄付に対する人々の認識と行動が変わる		・社会貢献意識8割 ・目指す社会像の実現	・社会貢献意識	・社会貢献ファシリテーター ・寄付月間参加団体 ・メディア	・社会貢献教育(教育の効果測定結果の蓄積と発信) ・寄付月間	
		社会貢献教育が全ての学校やコミュニティで当たり前化している		・社会貢献教育が学習指導要領に入り、全国化	・社会貢献教育のカバー率 ・社会貢献教育の参加人数	・社会貢献ファシリテーター ・全国の学校等教育機関 ・文科省など政府、自治体	社会貢献教育の全国化	
	3 次元の異なるスケールの資金循環が生み出せている	これまでの寄付・社会的投資のインフラが桁違いに成長する		・目指す社会像の実現	・各インフラの規模と成長率	・新公益連盟 ・全国レガシーギフト協会 ・SIMI、GSG国内諮問委員会	・政策提言 ・遺贈寄付推進 ・SIセンター事業	
		多様で新しいプレーヤーが資金循環を生み出す事業に参加するようになる		・全国のスポーツイベントのチャリティ化が推進されている ・新たに生まれたファミリー財団が100を超える	・新たに参加したプレーヤーの分野と人数 ・スポーツチャリティイベントの数の規模 ・ファミリー財団の数、基金規模	・プロスポーツリーグなど ・ファミリー財団ネットワーク		・スポーツチャリティの推進 ・ファミリー財団ネットワーク
	4 寄付・社会的投資の成長のためのエコシステムが枠を超えて構築されている	SDGsの促進との連携、支援ができています		・目指す社会像の実現	・SDGs達成のための資金ギャップと日本の貢献度	・SDGs推進ネットワークなど		・SDGsとFRの関係性の明確化(資金ギャップを埋めるのがFRの役割) ・SDGsが既存および新規事業に組み込まれている
		NPOやソーシャルビジネスの成長のための支援ができています		・資金循環に必要な政策制度が変わる(寄付金税制拡充、社会的投資減税、社会貢献型ICO制度など)	・アドボカシーを通じて実現したこと	・新公益連盟 ・政府	新公益連盟を通じたアドボカシーや仕組みづくり	
		企業の社会貢献との連携、成長への支援が増えていく		・目指す社会像の実現	・アドボカシーを通じて実現したこと ・仕組みの数とインパクト	・経済団体(経団連、同友会、新経連) ・政府		経済団体(経団連、同友会、新経連)と協調アドボカシーや仕組みづくり
		グローバルネットワークが構築され、日本がリーダーシップをとっている		・グローバルネットワークの中で課題「解決」先進国として日本がリーダーシップをとっている	・ネットワーク数、規模、日本のポジション	・グローバルネットワーク(各国FR協会、社会的インパクト投資の国際ネットワークなど)		グローバルネットワークとのアライアンス(各国FR協会、社会的インパクト投資の国際ネットワークなど)
5 社会のお金の流れを生み出すプロフェッショナルが活躍できている	人々の社会貢献意識が向上している		・社会貢献8割 ・目指す社会像の実現	・社会貢献意識 ・寄付、ボランティア参加人数、規模	・寄付研究者 ・寄付月間参加団体	・寄付白書 ・寄付月間		
	プロフェッショナル(ファンドレイザー、社会貢献ファシリテーター)が増える		・ファンドレイジングの本質を知り、基本スキルを理解する人が全てのNPO、公益法人等に在る状態	・プロフェッショナル人数(団体、分野カバー率)		・FR育成事業(資格制度、研修、スクール) ・社会貢献ファシリテーター育成事業	イノベーション人材育成事業(プログラム・オファー、インパクトマネージャー)	
	プロフェッショナルが活躍できる機会が増える		・市場規模(何かのプロフェッショナルをベンチマーク)	・プロフェッショナル人材市場規模		FRJ	人材マッチング事業	
	プロフェッショナルを目指す人が増える(裾野が広がる)	プロフェッショナルの価値(人々を幸せにする存在)が広く社会に伝わる プロフェッショナルの認知度と人気が高まる		・FRJ:稼働NPOの51%以上から1人以上がFRJに参加している ・なりたい職業ランキングのTOP30に入る	・FRJ参加人数 ・FR認知度、職業ランキング	・ファンドレイザー ・社会貢献ファシリテーター ・チャプター ・大学 ・メディア	・裾野を広げるための新たな事業 ・大学のカリキュラムにファンドレイジングが入る	
	チャプターが増える(地域、テーマ)		・チャプターは全都道府県をカバー ・20程度の分野別チャプターがアクティブに稼働 ・チャプターが地域や分野のインパクトハブになっている(認識されている)	・チャプター数、地域、分野カバー率		FRJ	・ファンドレイザーオブサイヤー ・ファンドレイザーリブランディング	
						チャプター化の推進		

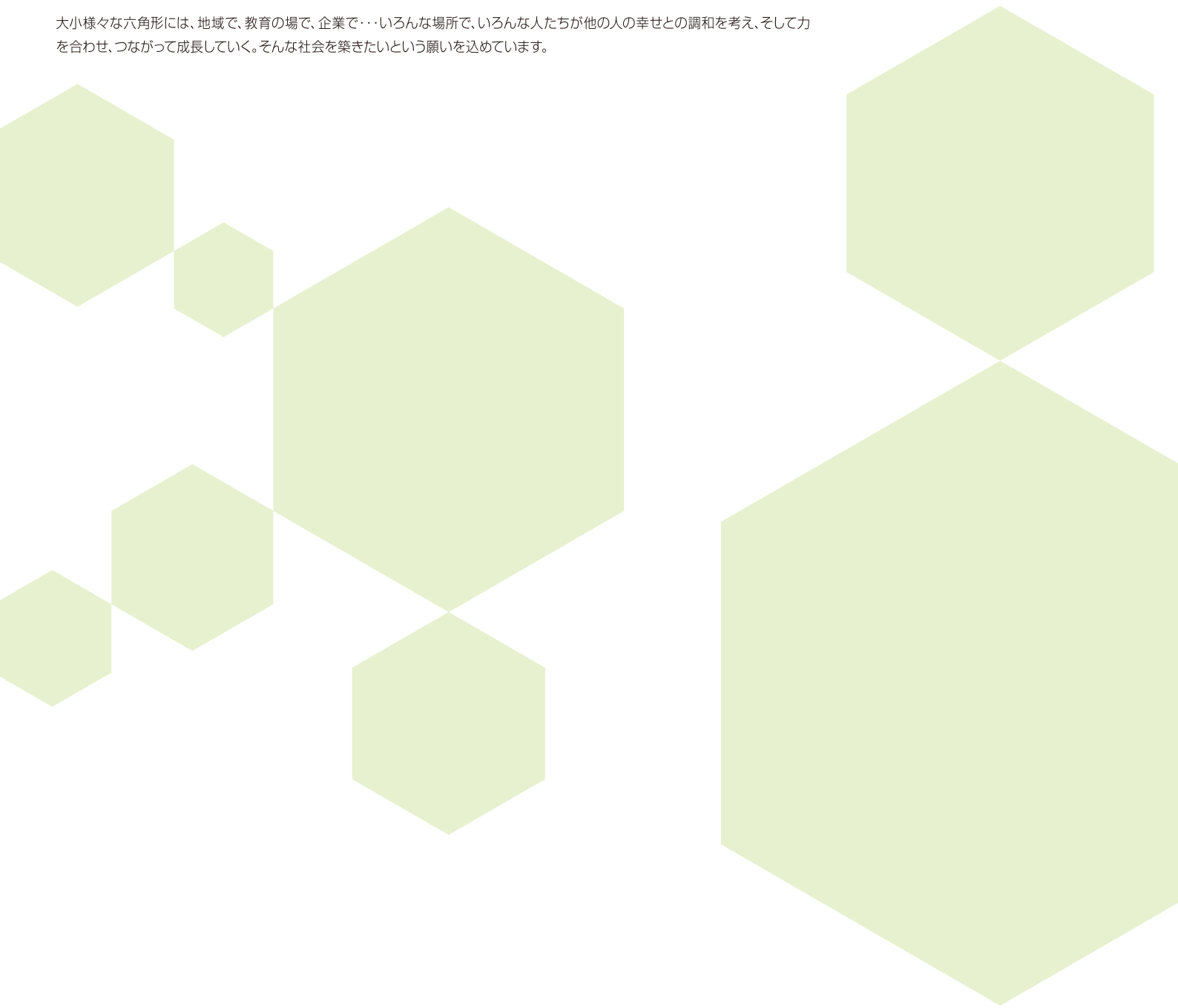


2009年、設立時に作成した私たちのシンボルマークは、大小様々な六角形が繋がり、上方に伸びていくことをイメージしています。

「六角形」は、大自然の秩序に適合した形（力学的構造）で、最も安定した力（パワー）を発揮するともいわれ、象徴的にも相反するエネルギーの調和や、世界の融和を表す形状といわれています。自然界でも、雪の結晶やハチの巣、亀の甲羅などでも見られます。

私たちは、六角形の6つの角を、①寄付者、②民間非営利組織、③受益者、④行政、⑤企業、そして⑥未来に生まれてくる子どもたちにみたくて、その全ての人々の幸せが調和して、循環する社会を目指していきたいという想いをこのマークに託しました。

大小様々な六角形には、地域で、教育の場で、企業で…いろいろな場所で、いろいろな人たちが他の人の幸せとの調和を考え、そして力を合わせ、つながって成長していく。そんな社会を築きたいという願いを込めています。



認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会

〒105-0004 東京都港区新橋5-7-12 ひのき屋ビル7F
TEL. 03-6809-2590 FAX. 03-6809-2591 MAIL. jfra@jfra.jp



日本ファンドレイジング協会 <https://jfra.jp>